

文部科学大臣賞

小学生の部



「ハイタッチで世界中に笑顔を」

横浜市立小田小学校
6年 高儀 歩佳さん

私には、知的障害がある弟がいます。弟は勉強が苦手です。たし算ができなかったり、字をきれいに書いたりすることができません。また、おちつきがないので、一人で留守番を任せることができません。でも弟は、家族の中で一番元気で明るいです。外でも人にすれちがったら「こんにちは」と笑顔であいさつをしています。私にはできない事が、弟は当たり前のようにできていて、すごいなと尊敬しています。私のクラスの学級目標は「ハイタッチ」です。「ハイタッチ」にこめた思いは「お互いの個性を認め合う、だれかががんばった時にハイタッチ。」です。ク

ラスには、個別級に通っている子がいます。その中のAさんは、家が近所で、幼稚園も同じです。Aさんとは年長のころクラスが同じで、よく遊んでいます。Aさんは、人と話すことが苦手で、よくとまどっています。一方、絵を描いたり、工作をしたりするのが、得意です。私は、幼稚園で、いっしょにお弁当を食べたり、絵を描いたり、プレスレットを作ったりしたときのことを今でも覚えています。小学生になると、同じクラスには何回かあったことはあるけれど、だんだんとAさんと交流が少なくなってきました。中休みなどに、個別級に遊びに行っていない自分がありました。どう関わればいいのか、何をして遊ぼうか分からなかったからです。幼稚園のころは、みんなでワイワイと遊んでいたので、遊んだりお弁当を食べたりすることができたけど、個別級とふつう級に分かれると、授業や給食がちがう教室になります。だから、もっと個別級とふつう級の交流を増やしてほしいと思いました。

今、インクルーシブ公園のように、障害に関係なく、だれもが楽しめる取り組みが増えています。弟は、

地域サッカークラブの中にある、チャレンジクラスに所属しています。チャレンジクラスとは、主に知的障害のある子達でサッカーをしているチームです。大会には参加しませんが、毎週コーチや親たちといっしょにサッカーを楽しんでいます。勝つことが目標ではなくて、障害に関係なくサッカーを楽しむことを目的にこのチームができました。弟はすぐにつかれてしまうので、座りこんだり、ねころんだりしてしまいます。しかし、コーチ達は、子供たちのペースに合わせてサッカーをしています。強制や無理強いはさせません。弟はチャレンジクラスでサッカーをすることを楽しみにしています。

弟には知的障害があるけれど、だからといって、何もできないというわけではありません。私にはできていないことを弟はできています。苦手なことばかりを見るのではなく、得意な所を積極的に見つけようと思います。そして、苦手なことがある所も、得意なことがある所もふくめ、それが個性だと思います。その個性を認め合う「ハイタッチ」を広げていきたいです。